

日限山小学校と南舞岡小学校の 学校規模適正化に関する説明会

令和4年5月23日（月曜日）14時00分、18時00分 南舞岡小学校
令和4年5月24日（火曜日）14時00分、18時00分 日限山小学校

横浜市教育委員会事務局施設部
学校計画課

次 第

- 1 日限山小学校と南舞岡小学校の現状
- 2 今後の取組
- 3 質疑応答

1 日限山小学校と南舞岡小学校の現状

1 日限山小学校と南舞岡小学校の現状

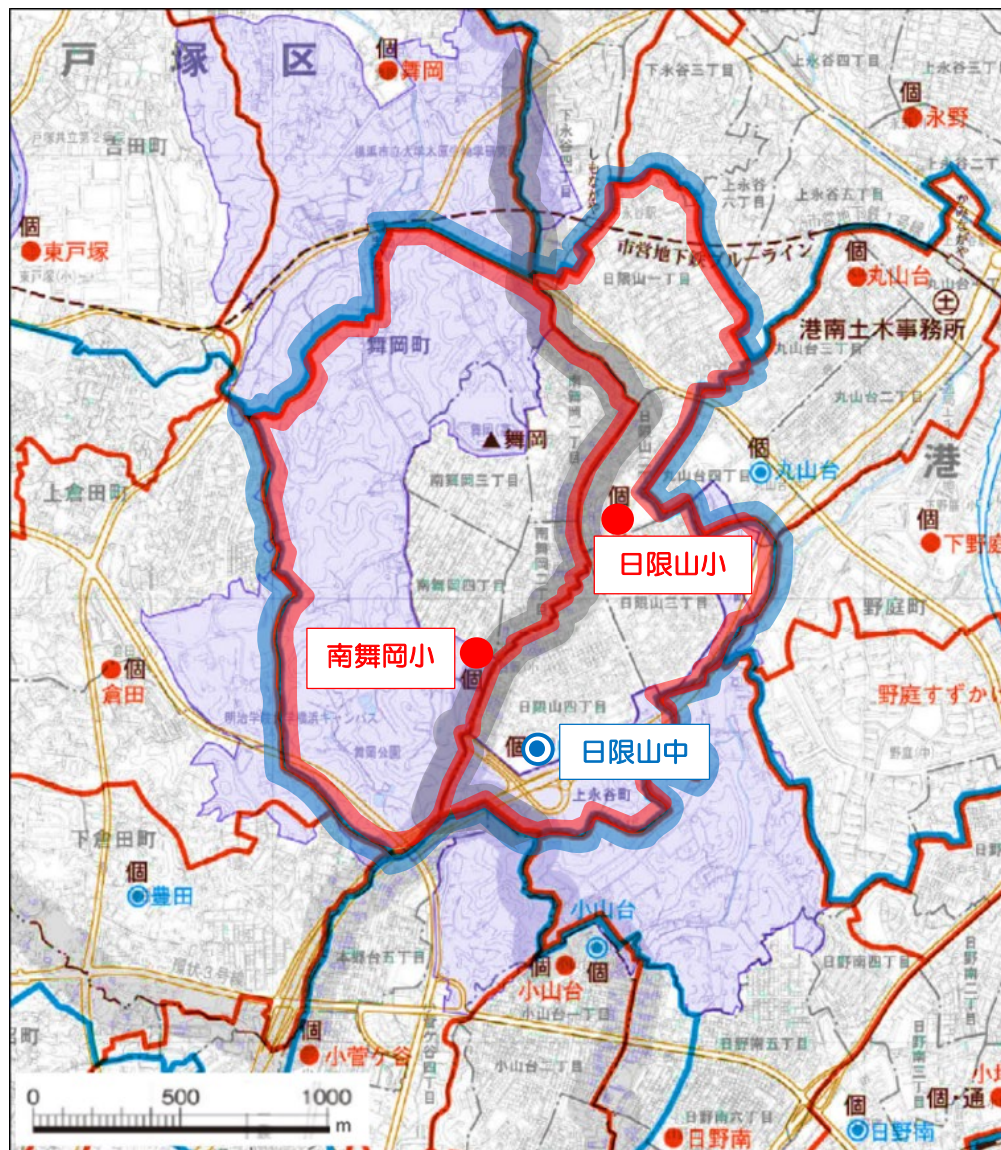
◆両校の基礎情報

学校名	日限山小学校	南舞岡小学校
開校年	昭和49年度	昭和56年度
親校	永野小・東戸塚小	日限山小学校
小中一貫教育 推進ブロック	日限山中学校／日限山小学校・南舞岡小学校	

1 日限山小学校と南舞岡小学校の現状

◆通学区域図

【凡 例】	
小学校	●
中学校	◎
小学校通学区域	—
中学校通学区域	—
行政区域	—
市街化調整区域	■



1 日限山小学校と南舞岡小学校の現状

◆適正な学校規模の考え方

<出典>横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針



◎小学校では、
12～24学級（各学年2～4学級）の学校を「適正規模校」とし、
11学級以下の学校を「小規模校」としています。

1 日限山小学校と南舞岡小学校の現状

◆学校規模の適正化

【基本的な考え方】

小規模校の課題を解消し、子どもたちの教育環境を良くするために、保護者や地域の方と十分に調整を図り、理解と協力を得ながら、通学区域の変更や弾力化等の手法を検討、実施することにより、学校規模適正化を推進する。

1 日限山小学校と南舞岡小学校の現状

◆日限山小学校の児童数・学級数

令和4年5月1日現在、

一般学級児童数447名、14学級の適正規模校です。

また、個別支援学級の児童数は17名、3学級です。

1 日限山小学校と南舞岡小学校の現状

◆南舞岡小学校の児童数・学級数

令和4年5月1日現在、
一般学級児童数207名、9学級の小規模校です。
また、個別支援学級の児童数は27名、4学級です。

1 日限山小学校と南舞岡小学校の現状

◆今後の一般学級児童数・一般学級数の見込み

日限山小学校	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	普通 教室数
児童数（人）	464	447	417	407	391	373	363	19
学級数（学級）	15	14	13	13	13	12	12	

南舞岡小学校	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	普通 教室数
児童数（人）	203	207	201	204	193	200	188	13
学級数（学級）	9	9	9	9	8	8	7	

《令和3・4年度》 5月1日現在の実数値

《令和5年度以降》 令和3年度義務教育人口推計による推計値

1 日限山小学校と南舞岡小学校の現状

◆『小規模校』の特徴 [児童の視点から]

利点

- 子ども同士よく知りあうことができ、人間関係が密になる。
- 縦割り集団行動などで、異なる学年の子ども同士の関係を深められる。
- 様々な学習活動の場で、それぞれが活躍する機会を持つことができる。
- コロナ禍において、運動会や卒業式等のイベントをあまり密になることなく実施できる。

1 日限山小学校と南舞岡小学校の現状

◆ 『小規模校』の特徴 [児童の視点から]

課題

- △ 多様な個性と触れ合える機会に恵まれにくく、人間関係を修復したり広げたりしていく力や社会性を育てる機会が限られる恐れがある。
- △ 運動会などで一定人数が必要な競技が行いにくくなる。
- △ 子ども同士の間人間関係が固定化しやすい。

1 日限山小学校と南舞岡小学校の現状

◆ 『小規模校』の特徴 [教職員の視点から]

利点

- 教職員が校内の子ども全員をより深く理解し、個に応じた指導を行いやすい。
- 学校に対する保護者の理解や協力を得やすく、学校全体で主体的な対応が取りやすくなる。

課題

- △ 授業内容や児童の指導について相談できる機会が減るなど、特に経験が浅い教員の負担が大きい。
- △ 一人の教員が担当する事務作業が多くなり、学級経営、教科研究などに費やす時間の制約を受ける。

1 日限山小学校と南舞岡小学校の現状

◆ 『小規模校』の特徴 [P T A・保護者の視点から]

利点

- 子ども一人ひとりの実態が把握しやすいため、学校と家庭との連携が取りやすい。
- 保護者同士のつながりが強く、お互いに協力しやすい。

課題

- △ P T A会員が減少するために、役員が固定化しやすい。
- △ 学校行事などの面で、保護者の負担が大きくなる。

児童数が増えることができること

◆ 児童数・学級数が増えると出来ること

1 友達に関すること

- ・多くの友達や個性と出会うことができる

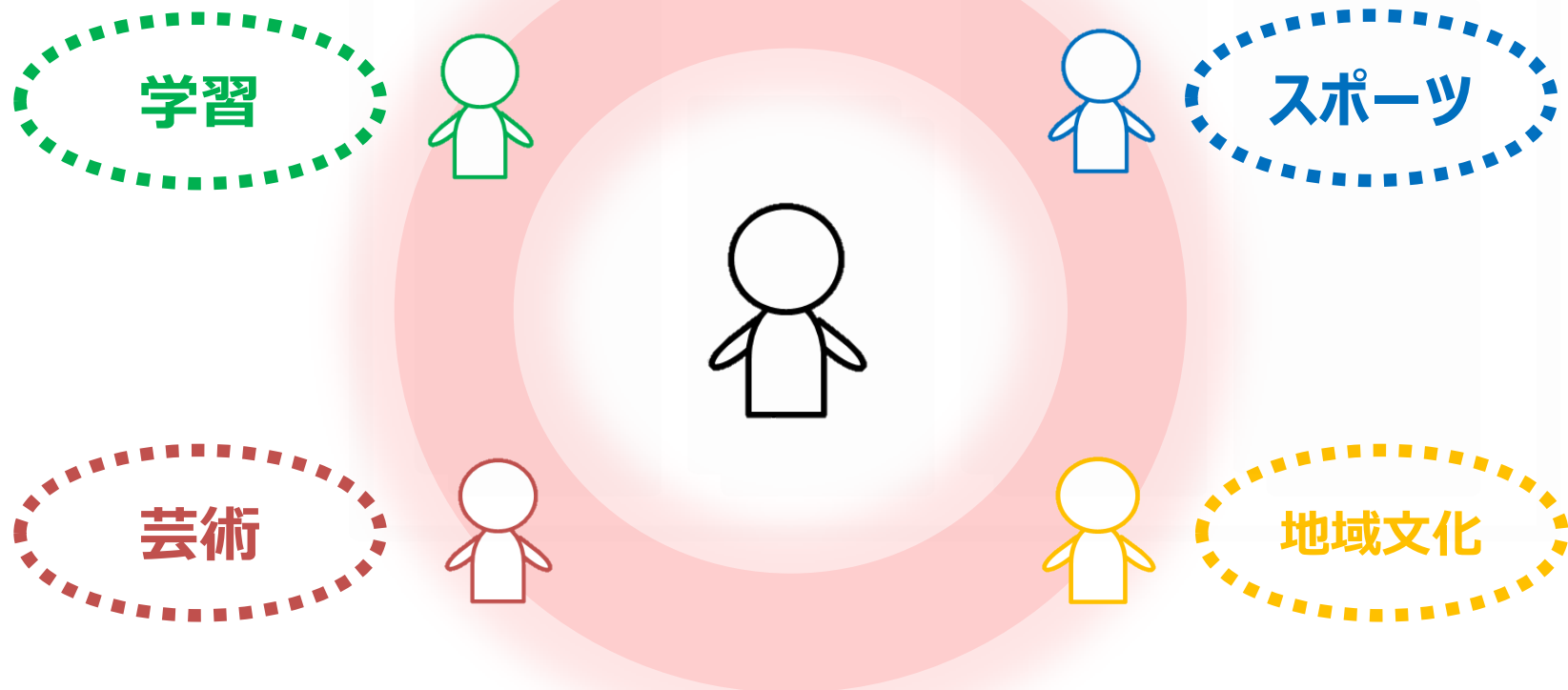
2 学習に関すること

- ・多様な意見に触れることで、自身の考えが広がったり深まったりして、学習への意欲が高まる
- ・活動の幅が広がる

3 先生に関すること

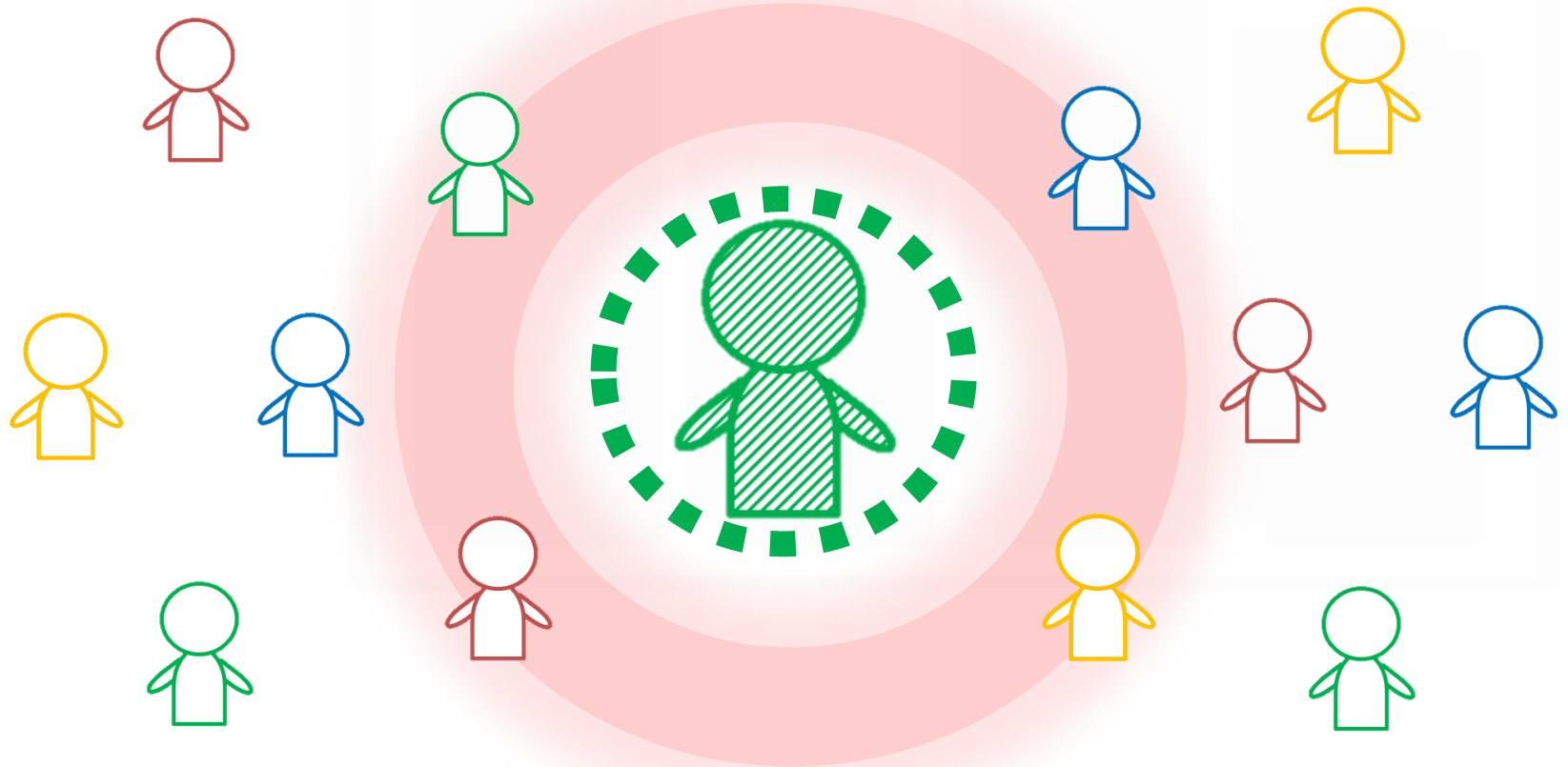
- ・子どもと向き合う時間を確保しやすくなる
- ・学級間の連携ができるようになる

《 小学校での6年間 》



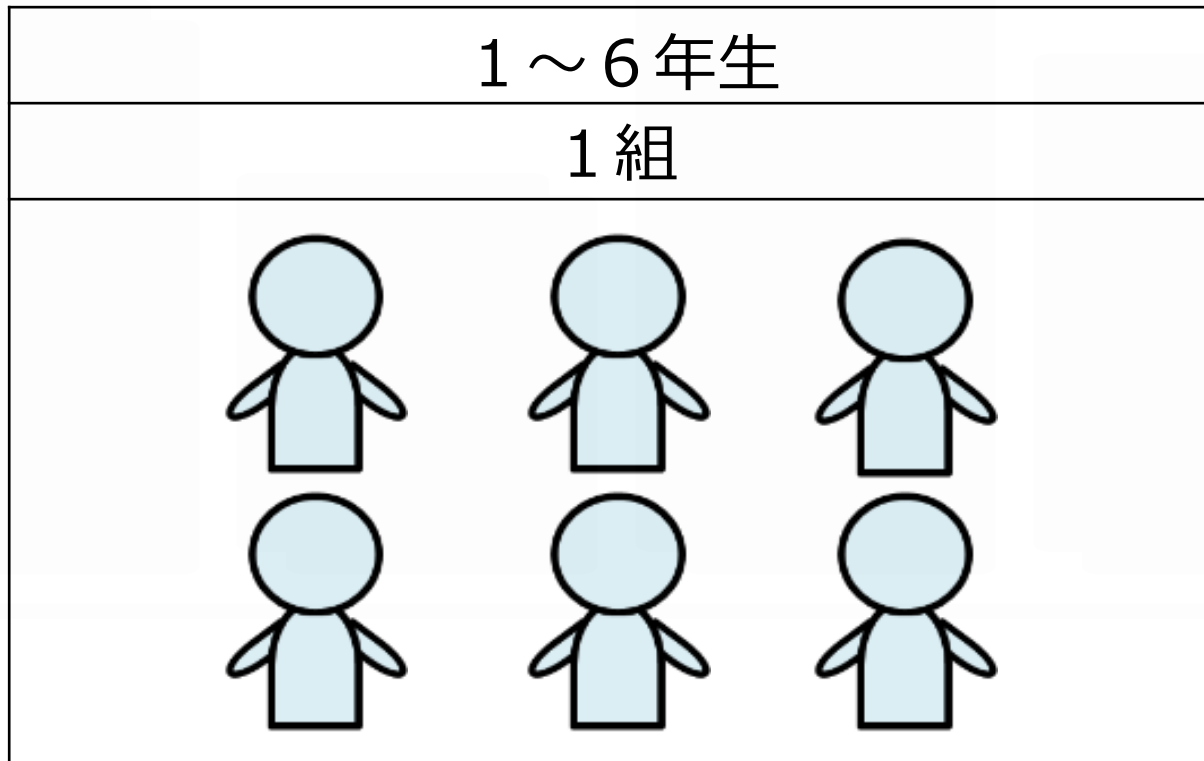
小学校での6年間は、多くの友達との関わりのなかで、自分づくり・仲間づくり・集団づくりをするための大切な時期です。

《 小学校での6年間 》



多様な個性と触れ合うことで、自分を知り、豊かな人間関係を構築するためのスキルを学び、社会性を育むことができます。

例えば、学年に1クラスだと・・・

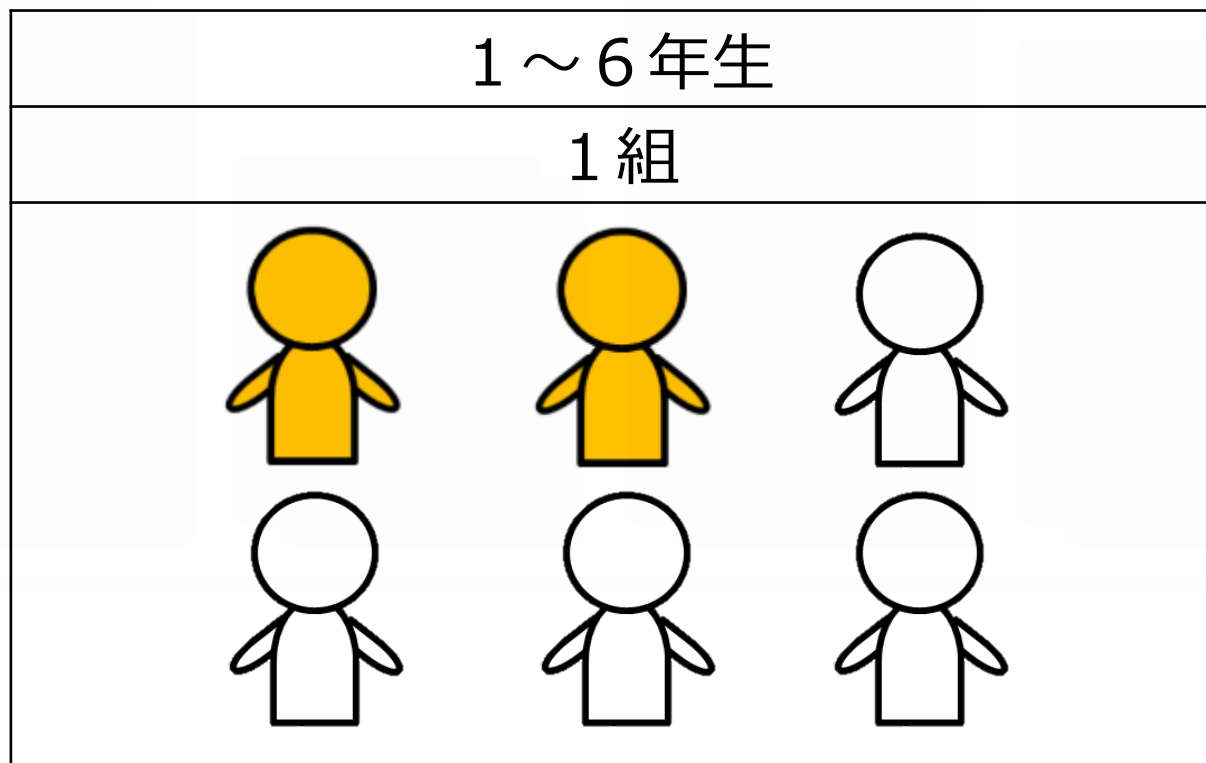


卒業まで同じクラスとなり、

お互いを深く理解できる一方で、


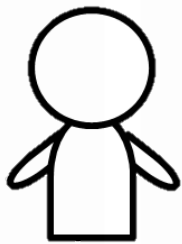
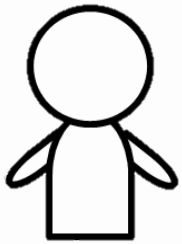

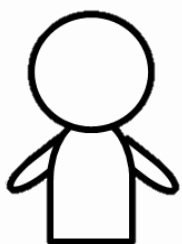







友達と出会う機会が限定されてしまいます。

例えば、学年に1クラスだと・・・



クラスの中で友達とうまくいかなくなった場合に、
関係を修復するきっかけが得られないことがあります。

例えば、クラス替えができると・・・

1年生→2年生					
1組			2組		
					
					

クラスの友達と関係がうまく行かなくなった場合でも、
クラス替えにより適切な距離を置くことができます。

◆ 児童数・学級数が増えると出来ること

1 友達に関すること

- ・多くの友達や個性と出会うことができる

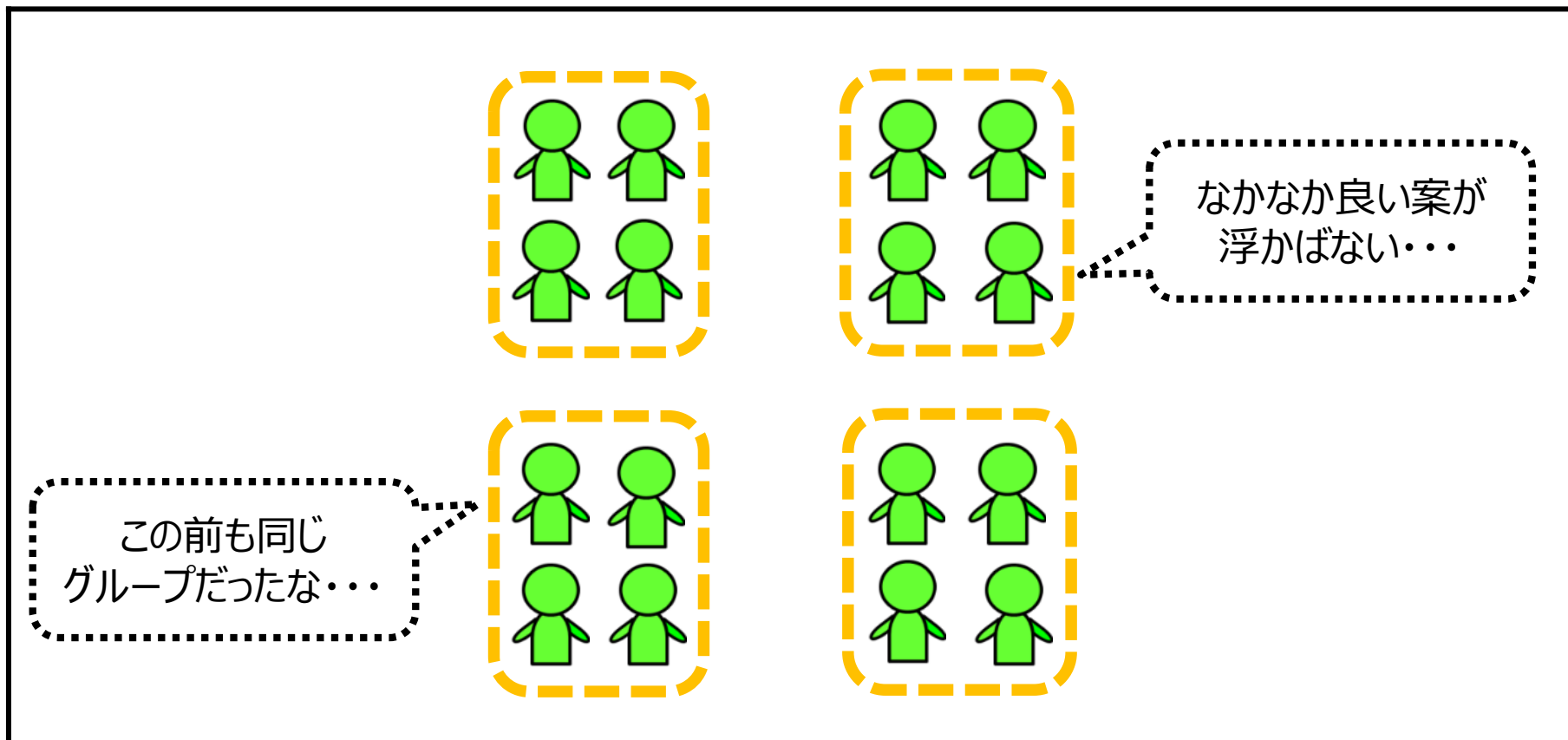
2 学習に関すること

- ・多様な意見に触れることで、自身の考えが広がったり深まったりして、学習への意欲が高まる
- ・活動の幅が広がる

3 先生に関すること

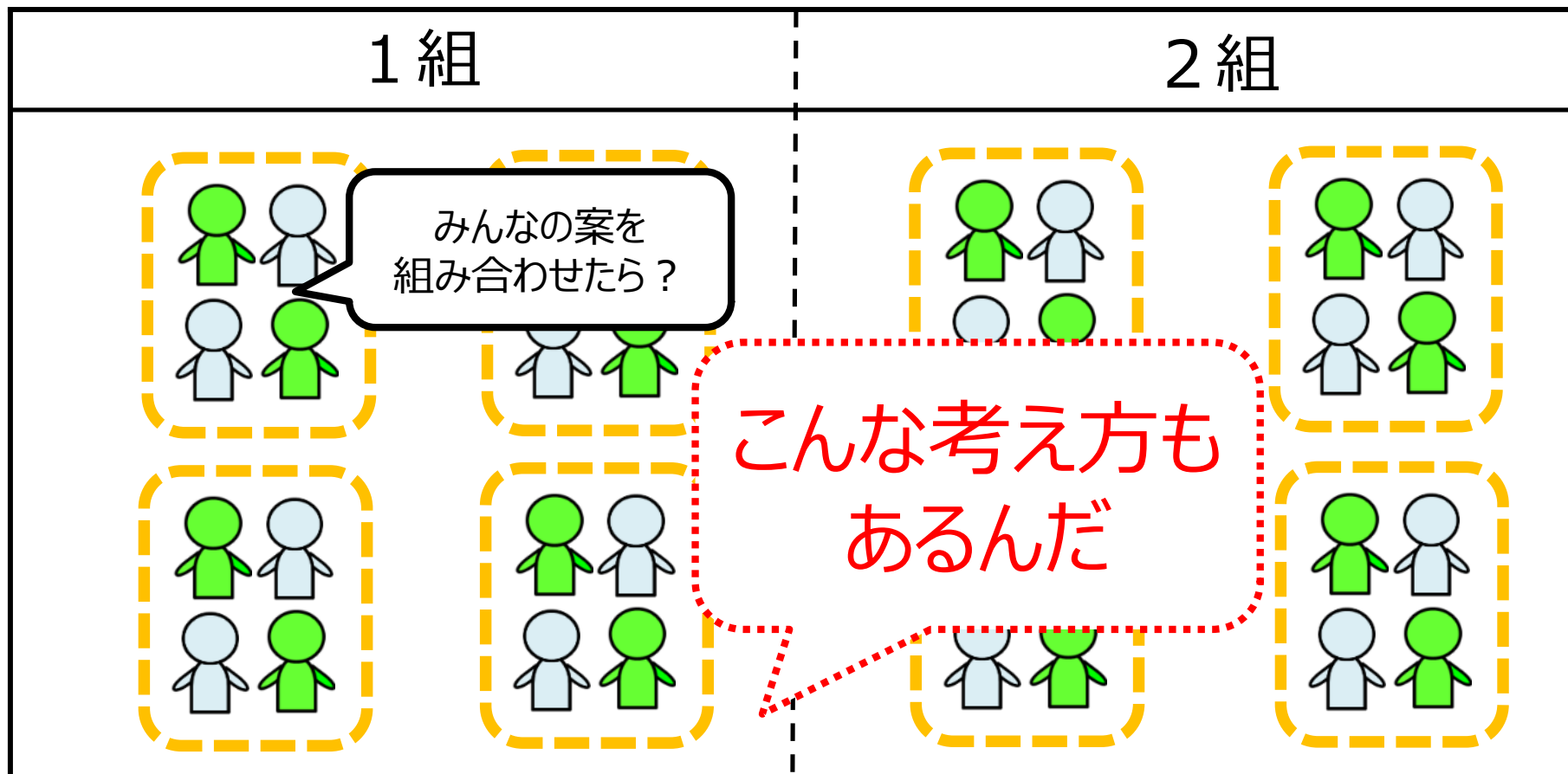
- ・子どもと向き合う時間を確保しやすくなる
- ・学級間の連携ができるようになる

例えば、学年に1クラスしかないと・・・



クラス間交流ができないため、班活動やグループ分けが
限定され、多様な意見に触れる環境を作りにくくなります。

学年に2クラス以上あると・・・



クラスの枠を超えた交流ができるようになり、多様な意見に触れることで、自分の考えが広がったり深まったりして、より学習意欲が高まります。

◆ 児童数・学級数が増えると出来ること

1 友達に関すること

- ・多くの友達や個性と出会うことができる

2 学習に関すること

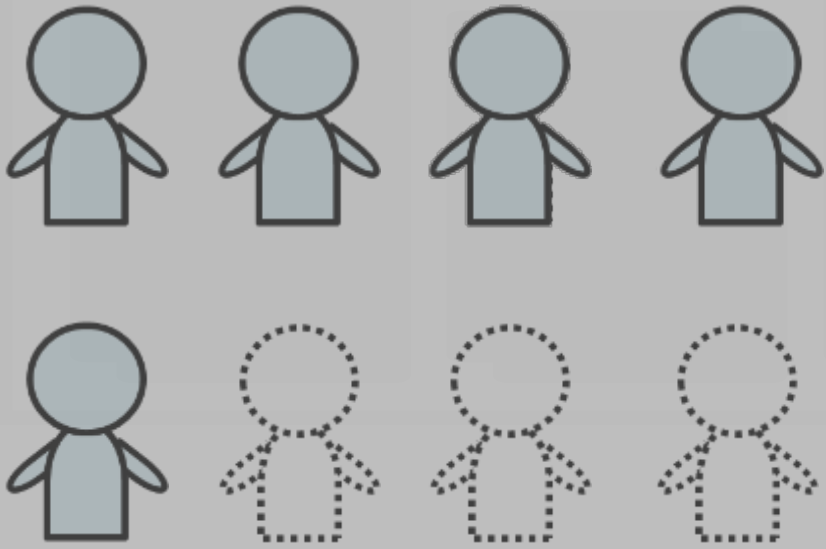
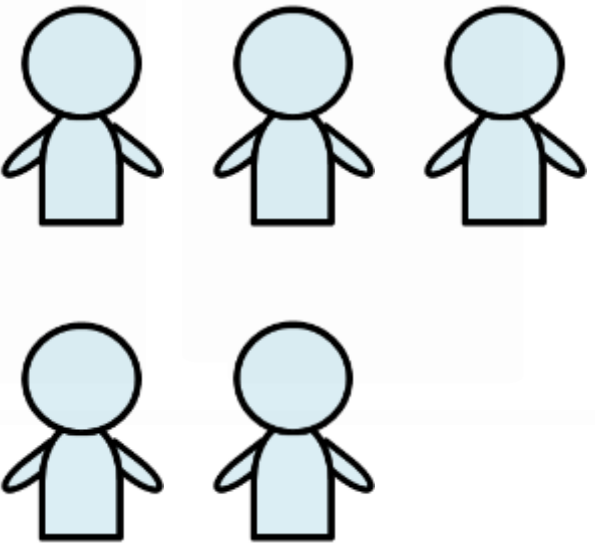
- ・多様な意見に触れることで、自身の考えが広がったり深まったりして、学習への意欲が高まる

- ・活動の幅が広がる

3 先生に関すること

- ・子どもと向き合う時間を確保しやすくなる
- ・学級間の連携ができるようになる

例えば、人数が少ないと、他校との球技大会では・・・

サッカー（8人）	バスケットボール（5人）
	

児童数が少ないと、出場種目が限定されてしまいます。

◆ 児童数・学級数が増えると出来ること

1 友達に関すること

- ・多くの友達や個性と出会うことができる

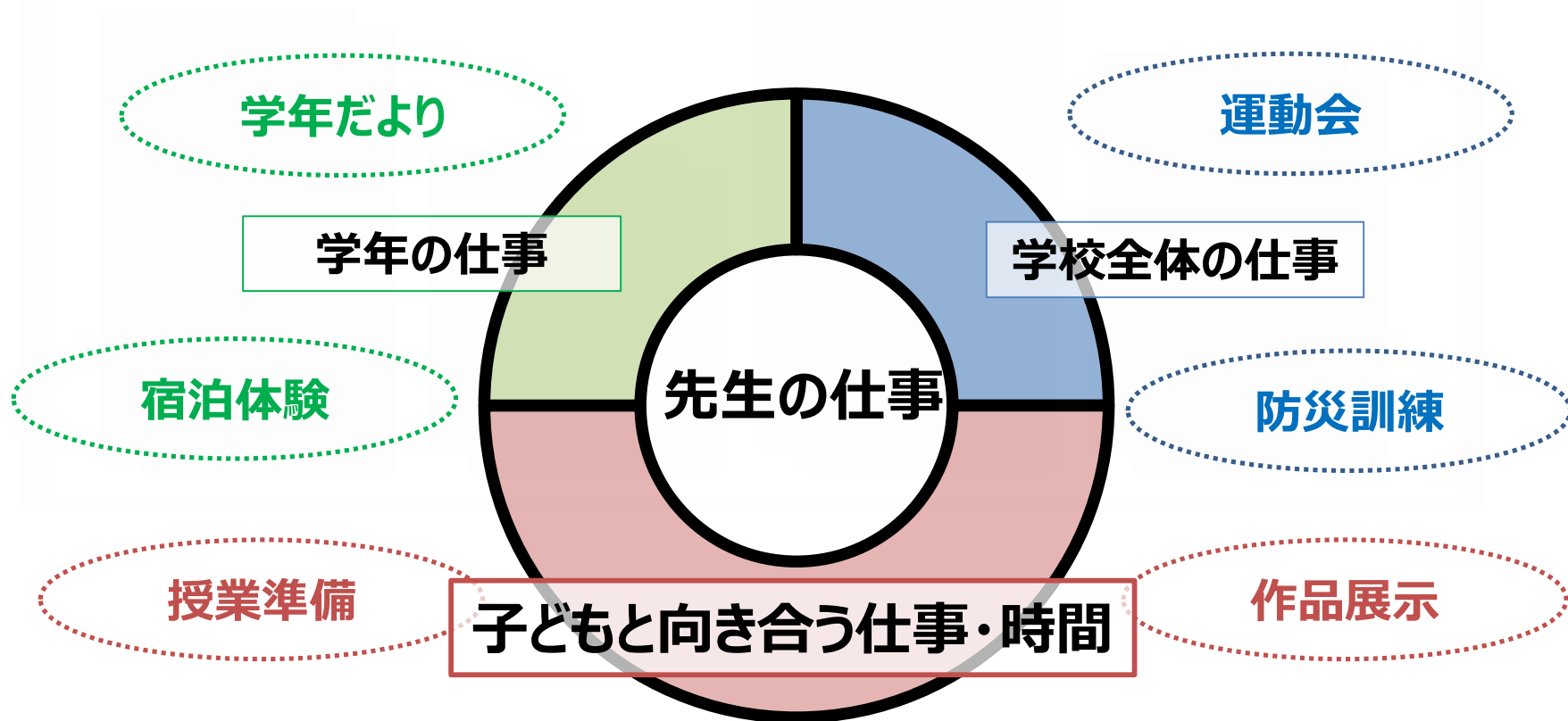
2 学習に関すること

- ・多様な意見に触れることで、自身の考えが広がったり深まったりして、学習への意欲が高まる
- ・活動の幅が広がる

3 先生に関すること

- ・子どもと向き合う時間を確保しやすくなる
- ・学級間の連携ができるようになる

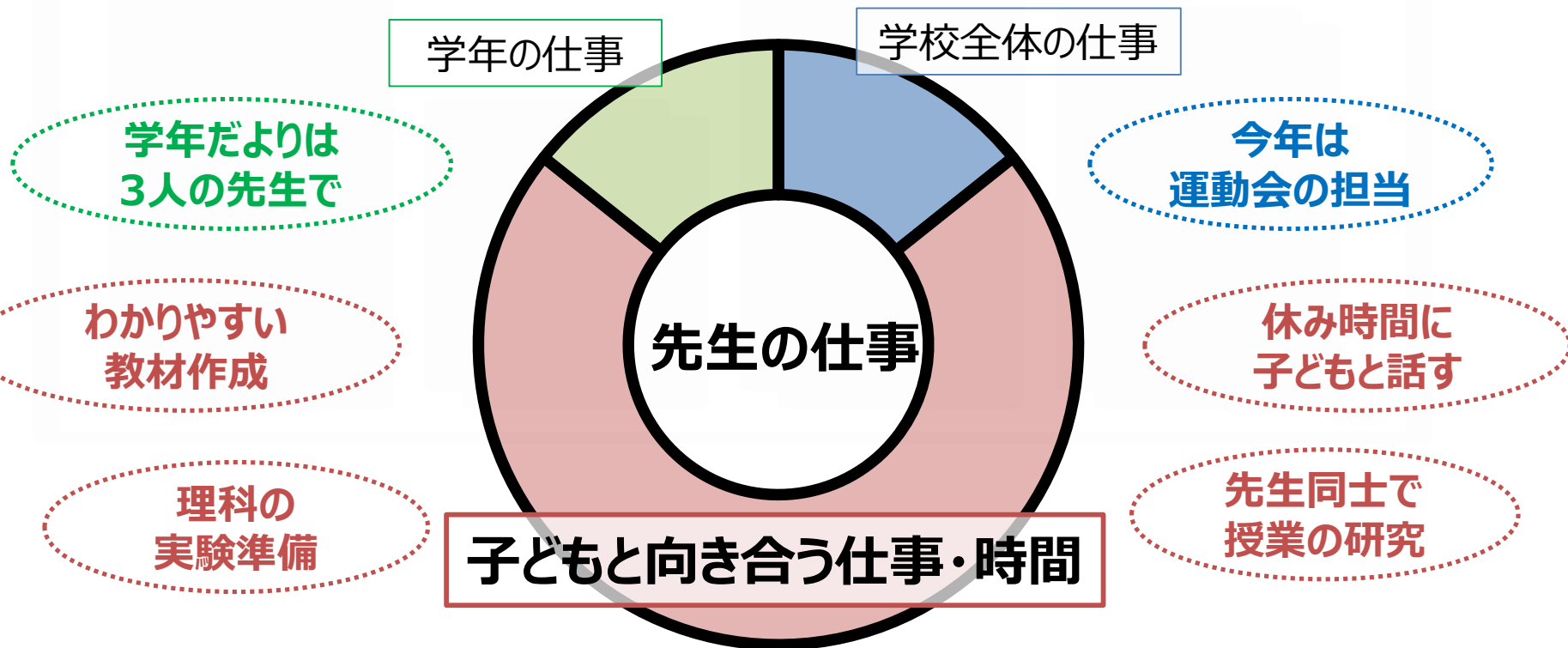
例えば、小規模校の先生は・・・



「子どもと向き合う仕事・時間」が最優先。

「学校全体の仕事」や「学年の仕事」は先生間で分担します。

例えば、適正規模校の先生は・・・



「学校全体の仕事」や「学年の仕事」を分担することで、
「子どもたちと向き合う仕事・時間」を多く確保できます。

◆ 児童数・学級数が増えると出来ること

1 友達に関すること

- ・多くの友達や個性と出会うことができる

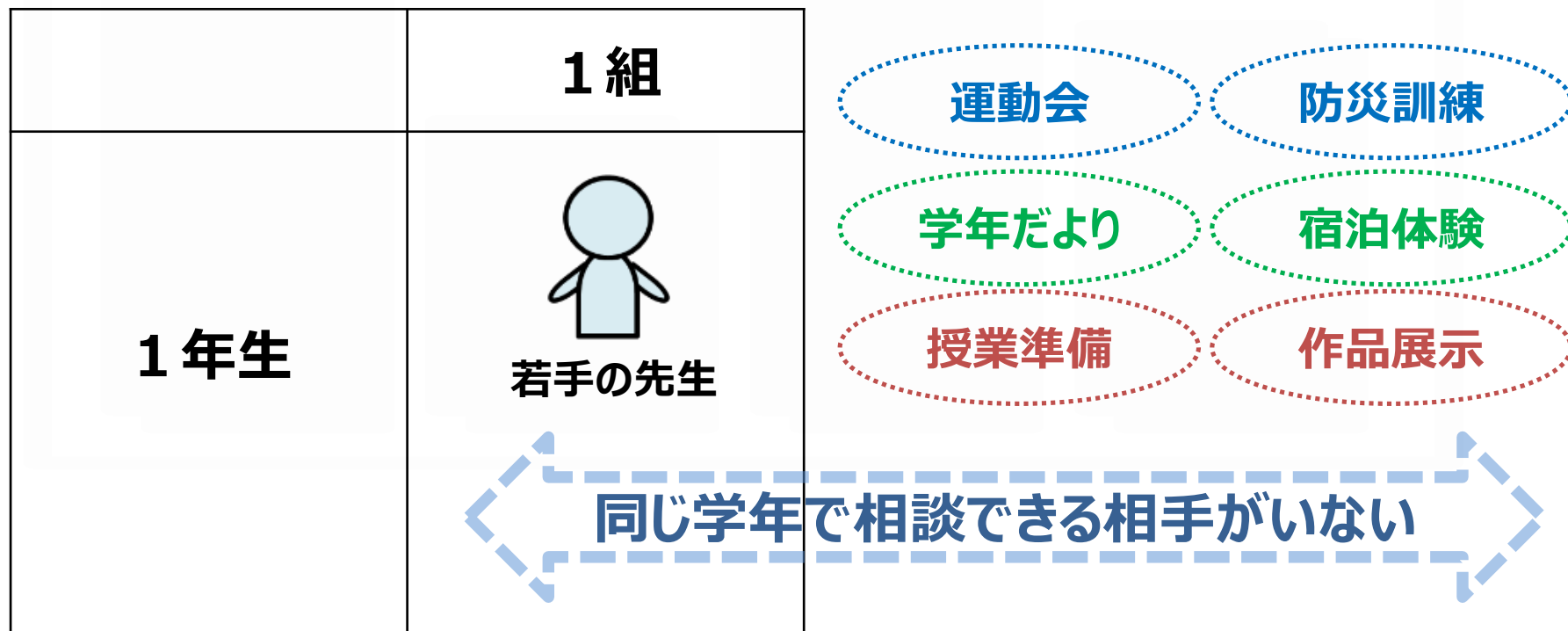
2 学習に関すること

- ・多様な意見に触れることで、自身の考えが広がったり深まったりして、学習への意欲が高まる
- ・活動の幅が広がる

3 先生に関すること


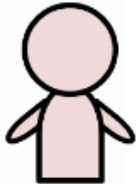


- ・子どもと向き合う時間を確保しやすくなる
- ・学級間の連携ができるようになる

例えば、学年に1クラスだと、学級間の連携は・・・



学級間で相談や連携をすることができないため、
先生個人に負担がかかりやすくなります。

例えば、学年に複数クラスあると、学級間の連携は・・・

	1 組	2 組	3 組
1 年生	 ベテランの先生	 中堅の先生	 若手の先生
 連携して学年を運営できる			

経験や専門の異なる先生が授業を研究し合うことで、

より良い授業を行いやすくなります。

組織的・安定的な運営に繋がります。

2 今後の取組

2 今後の取組

「日限山小学校・南舞岡小学校」通学区域と
学校規模適正化等検討部会を設置し、
今後の両校の方向性について検討していきます。

2 今後の取組

検討部会とは・・・

保護者代表・地域代表・学校長など、
20名ほどの方に検討部会委員として
ご就任いただきます。

1ヶ月半～2ヶ月に一度、会議を開催します。

2 今後の取組

検討部会で検討することは・・・

① 通学区域の見直しによって、
学校規模の適正化を図れるかどうか検討



①が難しい
場合は…

② 学校統合について検討

統合時期・使用校舎・通学区域・学校名 等

2 今後の取組

検討部会の検討経過（内容）については、各回ごとに検討部会ニュースとしてまとめ、日限山小学校と南舞岡小学校の通学区域内の全世帯に配付します。

皆様から寄せられた御意見については、部会において報告し、議論の参考としていただきます。

3 質疑応答

《お問い合わせ先》

横浜市教育委員会事務局施設部 学校計画課

電 話：045-671-3252

【Eメール】 ky-kounan2022@city.yokohama.jp

【ホームページ】

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/shokibo/kounantotsuka.html>